幼児を持つ夫婦の夫婦関係と子ども精神的健康との関連

養育の質を媒介変数とした検討
○川島亜紀子¹・松本聡子¹・菅原ますみ¹・伊藤教子²
(¹お茶の水女子大学・²明星大学)
キーワード: 夫婦関係, 子どもの精神的健康, 養育の質

Relationship Between Marital Quality and Infants' Psychopathology: Parenting Quality as a Mediator
Akiko KAWASHIMA¹, Satoko MATSUMOTO¹, Masumi SUGAWARA¹ and Kyoko ITO²
(¹Ochanomizu University, ²Meisei University)
Key words: Marital quality, Infant's Psychopathology, Parenting Quality

目 的

子どもの精神的健康や健やかな発達の問題の背後には、夫婦関係の問題が存在することが臨床心理学的に指摘されている。青年を対象とした調査研究の結果、夫婦関係の問題と子どもの精神的健康との関連との関連が見出されている(川島・眞榮城・菅原・酒井・伊藤, 2008)。年少児においても夫婦関係と子どもの苦悩の反応が関連することを示唆する研究はあるが(Cummings, Zahn-Waxler, Radke-Yarrow, 1981)、実際に夫婦関係の質が具体的な養育行動とどのように関連しているかを明らかにしている研究は見当たらない。そこで、本研究では、子どもの行動観察ならびに親子の相互作用観察を含めた養育環境の評定を行うことにより、夫婦のライフスタイル、夫婦関係の質と子どもの精神的健康との関連について検討する。

方 法

対象 2002 年 10 月 1 日から 2003 年 3 月 31 日までに首都圏某市で誕生した 0 歳児について、3 ヶ月検診時に保健所を通じて、参加依頼をし、調査に応諾した 918 名の母親を調査対象として登録した(菅原, 2004)。この対象に対し、郵送による質問紙調査を実施した結果、643 世帯から回答が得られ、そのうち家庭での観察実施に応諾した 175 世帯について、観察調査を行った(2005 年から 2006 年)。この観察対象者のうち、2005 年 1 月に実施された、2 歳時点での質問紙調査において回答が得られた 148 世帯分(男子 73 名、女子 75 名)のデータを分析に使用した。

測定内容 母子相互作用観察によって得られたデータと郵送法によって回収した質問紙データを分析に用いた。

母子相互作用観察 米国国立子ども人間発達研究所が開発した養育者(保育士)と子どもとの相互作用を測定するために開発された Observational Record of the Caregiving Environment (以下 ORCE, NICHD Early Child Care Research Network, 1996) の、一部改訂した日本語版 ORCE を家庭内で

の養育を観察する指標として用いた(菅原, 2004)。

ORCE は、44 分間を 1 ターンとし、単位時間(30 秒間)に出現する養育者と子どものコミュニケーション行動の頻度と、関わり方の質についての観察者の質的評価の 2 側面から測定する。44 分間の観察を 1 ターンとして、1 回の家庭訪問で 3 ターン実施した。トレーニングビデオによる評定者間一致率は、行動尺度 29 項目で平均 87.8% (33.3~100%) であった。

自己記入式調査用紙 家庭での養育環境に関する質問紙調査を子どもが 2 歳の時点で郵送によって配布、回収を行った。本研究では、両親の属性変数(年収、学歴、就労時間)、両親の夫婦関係の質(夫婦の愛情関係、Marital Love Scale 短縮版(菅原・託摩, 1997)、5 項目版、5 件法)、子どもの問題行動のチェックリスト(CBCL, Achenbach, Edelbrock, Howell, 1987)を検討に用いた。

結 果

観察行動尺度の一部は、正規分布していなかったため、ノンパラメトリック分析(順位相関係数の算出)を行った。また、変数の相関関係が子どもの性別によって異なったため、子どもの性別に相関分析を行った(表 1)。まず、母親による養育行動と両親の属性変数との関連を検討したところ、男児においては、家庭の収入の多さや学歴の高さが肯定的な働きかけや認知的発達を促すような働きかけの高さと関連していた。一方、女子では、父親の収入の高さが、母親の肯定的な働きかけや読み聞かせの頻度の低さと関連していた。夫婦の愛情関係については、父親の妻に対する愛情評価の高さとの関連がみられ、男子では母親による行動促進の多さと、女子では母親の否定的身体接触頻度の低さと関連していた。

考 察

夫婦の愛情関係および夫婦のライフスタイルは、母親の労働時間を除き、子どもの問題行動に直接関連していなかった。夫婦愛情関係とライフスタイルとの関連、さらには養育行動の媒介変数としての関連を検討することが重要である。

表 1 夫婦のライフスタイルと子どもの問題行動、母親の養育行動との相関(Spearman の順位相関係数, n=73, 75)

	子どもの問題行動									母親の養育行動								
	男子				女子				共	男子				女子				否
	内	外	内	外	内	外	内	外		内	外	内	外	内	外	内	外	
母収入	-.26	.00	-.22	-.03	-.04	.29*	.13	.18	-.01	.14	-.06	.14	.16	.02	.01	.10	-.15	
父収入	.09	.07	-.01	-.07	-.03	.11	.34**	.01	.28*	.19	.43**	.30*	.00	-.31*	-.27*	-.26*	-.03	.07
母労働	-.24*	-.04	-.11	-.04	.01	.27*	.01	.18	-.10	.07	-.07	.08	.09	.13	.26*	.11	.09	-.05
父労働	.02	.01	.07	.04	-.01	-.16	.05	.01	-.08	-.03	-.09	.07	.37**	-.21	-.02	-.17	.30*	-.05
母学歴	-.19	-.18	-.12	-.07	.33**	-.03	.32**	.24*	.31**	.29*	.14	.37**	-.11	-.06	.09	.15	.11	-.22
父学歴	-.18	.07	-.10	-.02	.10	.12	.24*	.21	.27*	.25*	-.01	.32**	-.06	-.08	-.11	.05	-.08	-.02
母夫婦	-.11	-.12	.01	.10	.09	-.04	.02	.04	.12	-.01	.07	.13	-.11	.07	-.07	.11	-.12	-.09
父夫婦	-.03	.01	.10	.07	.16	-.03	.06	.05	.10	.06	.10	.26*	-.12	.05	.02	.04	.05	-.29*

注)母(父)労働は、1 カ月当たりの労働時間、母(父)夫婦は、夫婦愛情関係評価。内=内在化型問題、外=外在化型問題、共=肯定的感情の共有、接=肯定的身体接触、アイ=肯定的アイコンタクト、問=質問する、語=語りかけ、教=教育的かかわり、ル=社会的ルールを教える、促=行動促進、入=入れ物に入れる、読=読み聞かせ、友=友人関係調整、否=否定的身体的行動。